

財 政 通 信 No.17

立秋が過ぎたとはいえ、毎日暑い日が続いています。皆さん、いかがお過ごしですか。私ですか？お蔭様で、体だけは丈夫ですから、毎日ビールを美味しく頂いています。

ところで、4月の人事異動で財政課も顔ぶれが変わりました。しかも、年度開始とともに暫定予算を執行し、これと併せて本予算編成が佳境に入るなど、市政運営上初めてのことばかりでバタバタの連続、皆さんにも大変ご迷惑をお掛けしました。

9カ月に及んだ予算編成作業の終了と同時に、今度は決算分析（地方財政状況調査と健全化判断比率等の算定）で、いつの間にか7月。参議院議員選挙の翌日には普通交付税の本算定・ヒアリング。8月第1週には、2年に1度の普通交付税の検査もあって、連日の残業、休日返上と休みなしの状態。世間ではお盆休みといいますが、補正予算の調製でそれもままなりません。夏休みの消化どころか、積み上がった振替休暇の消化という新たな課題も増えてしまいました。

余談ですが、毎年この時期は、前年度決算・現年度予算・翌年度当初予算のことが錯綜します。年を重ねるごとに記憶容量は低下、3年分の事業がクロスオーバーする頭の中は「猛暑日」の連続、秋が待ち遠しい今日この頃です。

さて、そろそろ本題に入ります。平成21年度の普通会計決算から垣間見える財政状況や今後のお話を一席。えっ！7月の職員説明会で聞いたから、今更聞きたくない……。そんなこと言わないで、もう一度付き合ってください。

1 平成21年度決算概況（普通会計）

会社経営では、資金繰り・資金手当てが重要な仕事の一つです。自治体経営においても同様ですが、その資金繰りの状態を表すものが収支状況です。

さてさて、平成21年度の収支状況は……。

（出納閉鎖まで数日と迫った5月下旬のとある日）

係長：21年度の収支がかなり改善してます。財政調整基金の繰入れどうします？

補佐：なるべくなら、基金は崩したくないよな。形式収支（歳入歳出差引額）どれ位でそう？

係長：基金を繰り入れなくても、5～6億円は確保できます。

課長：よし、基金繰入れなし！改善が一時的なものか、本格的なものかを見極めてくれ。

係長：改善を素直に喜ばばいいのに。考え込む性分だよな……。

補佐：まあ、そう言うなよ。22年度の財政運営を考えてのことだから。

平成21年度決算は、収支状況、経常収支比率（実質ベース）ともに改善が見られます。財政健全化法による財政状況も「健全段階」の判定です。本市の財政状況は、本格的な回復期に入ったのでしょうか？

（決算統計作業が終了した6月下旬の週末）

課長：実質単年度収支が280万円の黒字。実に3年振りの黒字転換だね。

補佐：黒字幅はわずかですが、収支は前年度比4億5000万円以上改善しています。

係長：職員削減等に伴う人件費の削減効果が、いよいよ現れてきました。

補佐：経常経費である人件費の削減傾向がハッキリ現れたのは、好材料だね（職員削減に加え、一人ひとりの手取りも減っています）。まさに、行政内部経費の削減努力が大きな財源確保につながってきた（個人的には、家庭のことを考えると複雑な心境。）。

係長：実は、臨時的な要因も、収支改善には好影響を与えています。公共下水道事業特別会計繰出金の削減は、上下水道料金の徴収一元化に伴う歳入年度の変更（21年度は13カ月分の収入）という特殊要因によるものですよ。

課長：市税収入は減収決算だけど、歳入面の特徴は？

係長：確かに、市税収入は減収ですが、地方交付税は久々に増収です。

課長：でも、地方交付税の増収分では、市税収入の減収分をカバーできていない。

補佐：地方の財源不足拡大に伴い、地方交付税の代替財源である臨時財政対策債が増発されたこともあり、地方交付税に臨時財政対策債を加えた「実質的な地方交付税」で見ると、経常的な一般財源のマイナス分をカバーしてます。

課長：つまり、経常的な収入は減ったが、臨時的な収入の増で一般財源を確保した。一方歳出は、これまでの取組み効果が発現した人件費や、市債等長期債務残高の着実な削減に伴う公債費などの経常的な経費の削減に加え、繰出金のように臨時的な要因による削減もあるということだ。

係長：市税収入が伸びて、経常的な歳出も大きく減った結果の収支改善なら、「本格的」と言えるんですが…。

補佐：少子高齢社会の進行で、扶助費や医療・介護給付費などの社会保障関係費の自然増があるから、そう簡単に財政状況が回復するというわけには…。

課長：自律的・本格的な回復とは言えないまでも、これまでの財政健全化の取組の効果が顕在化してきたことは、今後につながる（もし、こうした効果がなければ、社会保障関係費による歳出圧力に耐えられないよな。）。みんな！収支が改善傾向にある今こそ、心して財政健全化の取組を推進してくれ。

補佐：やっぱり、素直には喜びませんね。

2 本市の特徴など

地方財政の疲弊は全国共通の問題で、大半の団体は厳しい財政状況に直面しています。そうした中で、あえて本市の特徴点を三つ挙げてみます。

○債務高水準

インフラ（都市基盤）整備、清掃工場建設と周辺整備、総合病院誘致、総合運動公園建設など大型事業により市債等が累増し、公債費負担等が財政を圧迫。

○積立低水準

大型事業推進のため、一時は多額の特定目的基金を保有。一方で、財政調整基金の積み増しには至らず、収支状況の急変時への対応力が脆弱。

○収支低水準

高率の経常収支比率が端的に示すように、厳しい収支状況（資金繰り）。

(健全化判断比率を計算していた7月上旬の朝)

係員:うちの市,借金残高が多いのは事実ですが,なぜですか?(財政は新人なもので…)

係長:ニュータウン開発や佐貫駅前開発などのインフラ整備,清掃工場建設や総合運動公園建設の費用をキャッシュで払う?

係員:それは無理ですよ。僕だって,30年の住宅ローンを借りて念願のマイホームを手に入れましたから。

係長:投資的事業をするからといって,経常的な収入が増えるわけじゃない。選択と集中とは言うけれど,もし,投資的事業に予算(財源)を集中させたら,義務的経費も何もあつたもんじゃないかな。

補佐:長期の使用に耐える公共施設などは,使用できる間の住民負担でペイする。「世代間の負担の公平性」という考え方だよ。見方を変えると,投資的事業の財源に市債(借金)を充てることにより,特定の事業に一般財源の集中を避ける。これにより,自治体の責任として実施が不可欠な事業(福祉や教育,保健衛生,産業振興など)の財源を確保しているんだ。

課長:市債の活用は,将来世代に債務を引き継ぐことを意味するわけだけれど,そもそも将来世代は事業計画に参画し得ない。世代間の負担の公平性とは言っても,借金返済の責任だけを押し付けられたらたまらない。市債の活用には,事業の必要性や規模,何よりも利用想定を慎重に検討した事業計画を前提としなければならないね。

係員:なるほど(財政課は,どうも難しい話に発展するなあ…。)

市債の返済は,長期に及ぶことから,当面,債務高水準の状態が続くこと,及び基金を大幅に積み増す環境にもなく,積立低水準の状態が続くことはやむを得ないと考えています。

このため,当面の目標は「収支低水準」の状態を改善すること。つまり,「収支状況(資金繰り)」の改善が財政運営の最重要課題と考えています。

(交付税検査を控えた7月下旬の昼食後)

係員:課長が「債務高水準」って言っていましたが,早く返済できないですかね?(聞くは一時の恥。財政の新人に怖いものなし!)

係長:そりゃあ,早く返せるものなら早く返したいさ。でも,〇〇君だって,30年の住宅ローンだろう。なぜだい?

係員:我が家は,最低でも30年の使用に耐えます。それに,自分の収入やライフサイクルを考えると,30年のローンが自分に最も都合が良かった,ということですかね。

係長:自治体もまったく同じだよ。預金して,お金を貯めてから事業を行うという考え方もある。それを選択した場合,お金が貯まるまで長期に渡り必要な施設がなかったり,不自由な状態が続く。それではいけないということで,借金をしてまで事業を行うわけだから,その借金を一気に返済するというのは現実的ではない。やっぱり,計画的な返済が大事だと思うんだ。それに,繰上償還や借換えで,金利負担の軽減を図ることも大事だね(地味で目立ちませんが,繰上償還や借換えで,金利負担を大きく削減しています。)

係員:そうすると,市債の返済期間は20~30年の長期だから,急には減らないわけですよ。

係長:今の龍ヶ崎市は,大型事業が終了したから,新規の市債(建設地方債)の借入れは,

かなり押さえ込むことができる。つまり、債務残高は、着実に減少する方向にある。

補佐：気掛かりもあるね。地方財源不足の拡大に加え、国税収入の落ち込みが顕著のため、地方交付税の代替財源である「臨時財政対策債(特例地方債)」の増発で対応せざるを得ない状況にある。このため、「建設地方債」の借入れを減らしても、財源対策の必要から「特例地方債」が増えてしまい、市債全体の借入額はあまり減らなくなってきた。

係員：せっかく努力しているのに、効果はいま一つ。悔しいですね。

ところで、課長は「積立低水準」ということも言ってましたが・・・？

係長：基金には、財源調整のための「財政調整基金」、市債返済財源である「減債基金」のほか、特定の事業を円滑に推進するために積み立てる「特定目的基金」がある。

補佐：〇〇君は知らないと思うけど、龍ヶ崎市では昭和の時代から、清掃工場の建替え・総合病院の誘致・総合運動公園の建設を三大プロジェクトと言っていた。大きな事業費が予想されたから基金を積み立て、ピーク時には基金総額が92億円(普通会計)を超えた時期もある。

係員：21年度末の基金残高は28億円弱(普通会計)。ずいぶん減らしましたね。

係長：おいおい、俺が減らしたわけじゃないよ。大型事業の財源を、市債ばかりに頼っているのは借金残高が膨れ上がり、返済が厳しくなる。そうならないよう基金を積み立て、事業の推進とともに取り崩す(住宅やマンション購入の頭金に預金を使うのと同じです)。基金残高の減少は、事業が推進された証だよ。

補佐：話にでた事業は典型的な例だけど、ニュータウンの小中学校建設などを含め、多くの事業を展開してきたから、特定目的基金の残高が減少するのは当然と言えば当然。残念なのは、最も基本的な財政調整基金の残高まで減少していることだな(20年度に、財源調整のための本格的な取り崩しを行いました。)

課長：今の情勢を考えれば、市債等の長期債務残高は減少傾向にあることは間違いない。しかし、債務残高が急激に減少するというわけではなく、向こう数年間は公債費負担の高止まり状態が続く。また、基金を大幅に積み増せる情勢にもない。そうすると、当面の課題は、「収支低水準」の状態を改善することだと思う。行政内部の削減も相当進んでいることを念頭に、歳出削減策と増収策を検討していかなければならないなあ・・・。

係員：ふむふむ(さっき食べたお弁当、なんだか消化不良を起こしそうです。)

3 これからのこと

平成13年度からスタートした財政健全化プランも第3次を数えることとなりました。当面の課題は、収支状況を改善することです。しかも、少子高齢社会が財政運営に及ぼす悪影響を考慮することが肝要です。

(交付税検査が終了した8月上旬の昼下がり)

係員：少子高齢社会って、どんな社会ですかね。テレビコマーシャル(政府広報)で、相当年配の看護師さんが現役で活躍するイメージ映像があったと思うんですが？

係長：俺のイメージで最初に思いつくのは、少子高齢社会が財政運営に及ぼす悪影響かな。

係員：さすがは係長！ところで何ですか、悪影響って？

係長：おいおい・・・。高齢者が増えれば、医療費や介護費、年金なども増える。少子化の進行で、社会の担い手である現役世代が減る。少ない現役世代が、多くの高齢世代を支

えなければならぬ。経済活動も停滞し、社会全体が右肩下がりになるとしたら・・・？

係員：僕ら若い世代は大変ですよ。今だって給料は上がらない、ボーナスは下がるで四苦八苦しているのに。この上、税負担まで大きく引上げられたら、生活できないじゃないですか！

係長：まあまあ・・・。現実にはどうなるかは誰にも分からない。しかし、社会保障関係費が増え続けることは予測されている。現在でも、大量の赤字国債を発行しなければ予算が組めない国の財政が、少子高齢化の進行でますます厳しくなることはほぼ間違いない。

補佐：単なる税負担の問題では済まないよ。現在の社会システムを前提としていては、財政破綻も視野に入る。そうなる前に、医療や年金、セーフティーネットの充実などを含めた社会保障制度全般の見直し、消費税をはじめ税制全般の見直しなどをセットで議論し、実行に移してほしいものだ。国の財政状況を考えれば、議論の先送りは許されないと思うんだけどなあ。

課長：天下国家を憂えた、ずいぶん大きな話をしてるね。一日も早く国のあり方をきちんと議論してもらいたが、まずは足元から考えようよ。龍ヶ崎市を今後どうするのかを？

財政運営の視点から少子高齢社会を眺めると、収支ギャップは構造的に拡大することが予想されます。多様化・増大を続ける公共サービス需要を「官（行政）」が担い続けることは困難で、それどころか、これまで官が担ってきた公共サービス全体が破綻・崩壊の危機に瀕することも考えられます。

そうなる前に、「そもそも」行政の守備範囲を見直し、併せて、公共の担い手・役割分担の再構築、さらには、安定的な財源を如何に確保していくのかを検討し、順次実行に移していかなければなりません。

（補正予算を調製していた8月中旬のとある朝）

係員：少子高齢社会と財政運営の関係は、何となく分かったような気がしますが、今の社会システムを続けていては、いずれ行き詰る・・・。どうすればいいんでしょうか？

係長：いい悪いにかかわらず、公共サービス全体の見直しが必要なときだよ。単なる歳出削減策としてではなく、「少子高齢社会版」の公共サービスを構築することが必要なんだろうね。

補佐：自治の基本は、「自助・共助・公助」という補完性の原理にあるそうだ。とりわけ、住民に身近な市町村行政の場合は、「公共を皆で担う」という新たな公共の理念の下、地域課題を地域の力で解決するという視点がますます重要になる。

課長：そうだね。そのためには、個人や自治会・町内会などの地域コミュニティ、NPO等との役割分担の明確化と協働の仕組みづくり、会社や学校等との連携も図らなければならない。

係員：課長！「言うは易し」ですよ。そんな簡単に新たな仕組みができますか？

課長：簡単なわけないよ。だからこそ、一日も早く取り掛かるんだ。一昔前から「都市間競争」と言われるが、立派なハコモノなどで競ってもしようがない。これからは、少子高齢社会に対応した「21世紀型の自治の仕組」づくりが、都市間競争の主戦場だと思うんだ。

係員：奥が深いですね・・・。それで、僕は何をしたらいいんでしょうか？

課長：「市民の幸せ」という商品の企画・開発を考えてほしいな。もちろん、そうした行政運営

を支えるための財政健全化の推進についてもね。

補佐:なかなか文学的ですね。どうも今は、閉塞感が蔓延しているような気がしてなりません。考える前に、「予算がないから」、「要求しても無駄だから」、「財政が厳しいから」と、思考を停止してしまうような・・・。

課長:江戸時代の俳人、かの松尾芭蕉は、越後 出雲崎から佐渡島を眺め、実際は雨天にもかかわらず、「頭上に天の川が広がっている(荒海や 佐渡によこたふ 天の河)」と句を読み、死の床にあっても「夢は枯野をかけ廻る」というように、自由な発想を貫いたそう。今の構造を改革し、新たな仕組みをつくるには、そうした自由な発想が大事だと思うんだよなあ。

補佐:「三人寄れば文殊の知恵」と言いますが、総勢 469 人の職員が力を合わせれば、相当いいアイデアも生まれますよ。しかも、お金がかからない点がいいですね・・・。

課長:金はなくても夢は持てる。構想はできる。自由な発想、創意工夫・・・。何より、我が龍ヶ崎市は、自由闊達な組織風土、それが持ち味であり強みであると信じたいね。

係員:まずはお金をかけずに考えようということ・・・?(この人達、根っからのケチだ!)

長々とお付き合いありがとうございました。これまでの文体と違うことに、もうお気づきですね。第 17 回はリリースの登板でした。次回、第 18 回より、ローテーションで順次、エースが登板します。期待してください (M)。